

ICH Must Go On!

本日を以って、本校の令和7年度が無事に終業いたしました。学校としましては、うまく行ったことも、そうでなかったことも、様々ありましたが、とりあえずここまで辿り着けたことに対して、生徒の皆さん、そして保護者の皆様に感謝申し上げます。

さて、この校長通信のラストでは、私の個人的なことを報告させていただきます。

本日の終業式で生徒の皆さんには既にお伝えしたところですが、私はこの3月末を以って千葉県公立学校の教員を退職することといたしました。その理由は、端的に言いますと、「家庭」と「校長」という職との両立ができなくなったということになります。

わずか1年で、何事も成さずに去ることを大変心苦しく思います。しかし、言い訳に聞こえるかもしれませんが、極端な話、校長が誰であろうと、次の3つの条件さえあれば、学校はうまく回っていくものだと確信しています。

- ① 先生方が心身ともに健康である。
- ② 保護者の方々から御理解と御協力を頂ける。
- ③ 生徒の皆さんがそれぞれ高い意識を持って学校生活を送る。

まず①について。先生方が自らのパフォーマンスを最大限に発揮できる状況(環境)にあれば、校長が特に何かしなくても、学校は自ずとうまく回っていきます(逆に言うと、そういう環境を整えるのが校長の責務)。

次に②について。我々がよく「日頃から本校の教育活動に御理解と御協力を頂きありがとうございます」という言葉を使うのは、単なる定型の決まり文句だからということではありません。実際、本当にそのように考えているからです。学校で行っている、ありとあらゆることには「**決まりきった正解**」がありません。そのような中で、これまでの知識や経験を踏まえた上で、我々が「**正解だと思ふこと**」を淡々と、粛々と実践しているわけですが、結果としてうまく行かないことも多々あります。そのような中でも学校を前へ進めて行くには、保護者の皆様の御理解と御協力が欠かせない、ということです。

そして何よりも重要なのは③です。主役である生徒の皆さん…あなたたちが、まずは**自分自身を大切に**する…心身の健康に留意し、事故や事件に巻き込まれないよう気をつけ、自身の能力を最大限に発揮し、将来を見据えて行動する…そして、自分自身を大切にすると全く同じように**他者を尊重**する…こういう意識を持ちながら日々を過ごしてくれば、学校は自然とうまく回っていきます。今の皆さんなら全く心配していません!

教諭として8年間、教頭として2年間、そして校長として1年間、計11年間にわたって携わってきたこの市立千葉高校は、私にとって第2の母校のようなものです。私はここを去ることになりますが、市千葉のことはこれからもずっと気にしていくことになるでしょう。何か大々的なトピックなどなくても、例えば市千葉を志願する中学生がたくさんいれば、それは**現役の生徒や保護者の方々**がPRしてくれているのだなということがわかります。そのようにしてこれからも末長くICHが続いていくことを祈念して、From “B”を閉じたいと思います。1年間お読みいただき、誠にありがとうございました。